自動車産業がこれからも日本の基幹産業であり続けるための

国際競争力強化

次世代技術・部品の開発余力の創出に繋がる

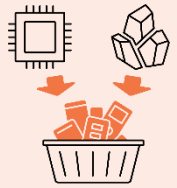
飛躍的な生産性向上

自動車産業のグローバルエコシステムの中での

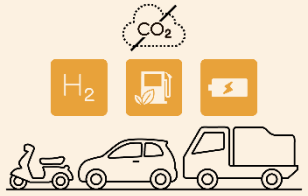
不可欠性の確保

新７つの課題

1 重要資源や部品を確保する



2 マルチパスウェイを実装する



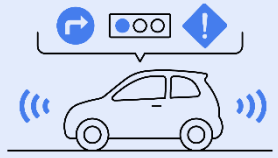
3 サーキュラーエコノミーの仕組みをつくる



4 人材基盤を強化する



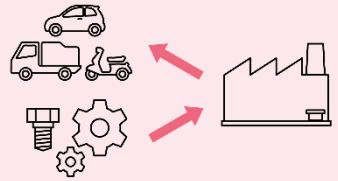
5 自動運転を前提とした交通システムをつくる



6 クルマの税を改革する



7 サプライチェーンで競争力を高める





2026.1.26

自動車工業会　理事
毛籠　勝弘

日本の自動車産業の将来競争力に関する提言
― 新７つの課題に通底する危機認識と、産業構造変革への覚悟 ―

去る１月 22 日に開催された自工会臨時理事ミーティングにおいて議論された「新７つの課題」を受け、新会長のもとで自工会が、どのような問題意識と覚悟をもって日本の自動車産業を導いていくのかという観点から、私見と期待を整理し、以下ご提案申し上げます。

変革に向けて方向性を決定

一体で推進



専門的な議論の深化

理事会

		委員長名
総合政策委員会	TOYOTA	松山 洋司
安全技術・政策委員会	NISSAN MOTOR CORPORATION	赤石 永一
サプライチェーン委員会	TOYOTA	熊倉 和生
環境技術・政策委員会	HONDA	秋和　利祐
次世代モビリティ委員会	TOYOTA	山本 圭司
二輪車委員会	YAMAHA	設楽 元文
軽自動車委員会	SUZUKI	鈴木 俊宏
大型車委員会	ISUZU	山口 真宏
モビリティショー委員会	TOYOTA	宮崎 洋一

2026年度の総括

「新7つの課題」の「社会実装」に向け、自工会が総力を挙げて行動を開始

水素





- 業界・官民の垣根を超えた「水素大動脈構想」を立ち上げ
- 地域準備会を各地で開催し、
  自治体と連携した水素普及に向けた取り組みを加速

物流

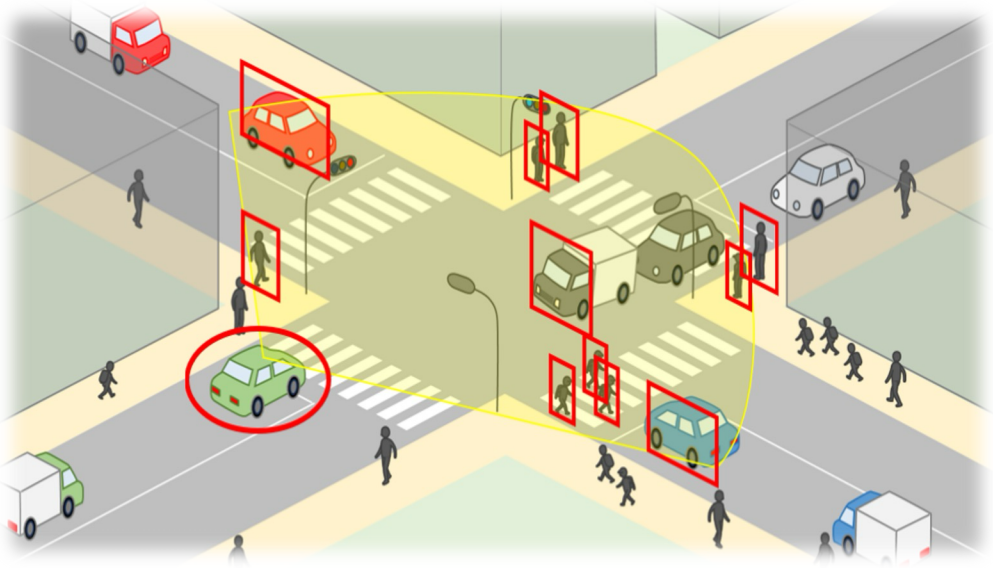




- 個社間での協業実績を積み上げながら、データ基盤を整備
- 2028年末までに体系化した完成車の共同物流開始を目指す

自動運転





- 各社でEnd-to-Endのレベル2++/レベル4技術開発を加速し、2027年度以降順次実装
- 「事故死ゼロ」・「移動の自由」実現に向け、インフラ協調や普及に向けた官民連携基盤・制度の整備

2027年度の方針

「新7つの課題」を
「社会実装」に向けて継続
＋
「実効性」の更なる向上

自動車産業がこれからも日本の基幹産業であり続けるための

国際競争力強化

次世代技術・部品の開発余力の創出に繋がる
飛躍的な生産性向上

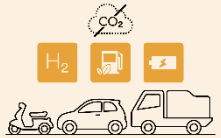
自動車産業のグローバルエコシステムの中での
不可欠性の確保

新７つの課題

1 重要資源や部品を確保する



2 マルチパスウェイを実装する



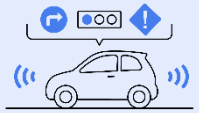
3 サーキュラーエコノミーの仕組みをつくる



4 人材基盤を強化する



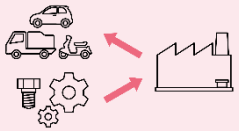
5 自動運転を前提とした交通システムをつくる



6 クルマの税を改革する



7 サプライチェーンで競争力を高める



モビリティのワクワク





Japan Mobility Show



10月28日～11月7日